



日本平滑筋学会ニューズレター

No.7

2013.6.18

発行所: 日本平滑筋学会事務局
 〒701-0192 倉敷市松島 577
 川崎医科大学消化管内科学
 TEL:086-462-1111
 FAX:086-462-1199
 E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp
 HP: http://www.jssmr.jp/
 発行責任者: 春間 賢
 編集者: 高木 都

第55回平滑筋学会総会概要決まる

第55回日本平滑筋学会総会は、旭川医科大学・生理学講座・自律機能分野教授 高井章会長のもと、来る8月6日-9日、旭川市にて開催されます。会長に抱負を伺いました。

北海道での二度目の総会に向けて

第55回日本平滑筋学会総会会長
高井 章

第55回日本平滑筋学会総会(2013年8月6日(火)~8日(木)、旭川市大雪クリスタルホール)の開催が迫って参りました。おかげさまで総計74題の演題抄録を登録いただき、充実したプログラムが完成間近です。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

さて、北海道での総会開催は今回が2度目で、前回は1980年6月11日~12日に札幌市教育文化会館で開催された第22回総会(宮崎英策会長)でした。

平滑筋学会雑誌第16巻(2)123-270(1980) [1]所収の「第22回日本平滑筋学会総会講演抄録」[2]によると、その総会の演題数は70(特別講演2演題[江橋節郎先生とE. Daniel先生]、シンポジウム5演題、一般口演63演題)でした。

そのうちシンポと一般口演68演題を実験手法別に分類すると、イヌなどにおける *in vivo* 実験(留置トランスデューサによる張力の長期記録、内圧記録、筋電図、pH記録など)が33題で最多、摘出筋標本における張力記録、電気生理(蔗糖隔絶法 and/or 微小電極法による細胞膜電位記録)などが27題でそれについています。

1980年という年代を考えれば、それ以後に続々と導入されて現在では広く普及している、単細胞チャネル電流記録、細胞内 Ca^{2+} 記録や様々な分子生物学的手法などの microscopic な研究方法(およびそれらに関連したコンピュータによるデータ解析)が、その抄録集にまったく見られないのは当然です。相当な古めかしさを感じるのはいやむを得ないところでしょう。しかし、随所に掲載されているアナログペンレコーダ記録をみて、当時それを観察した研究者達が覚えたであろう新鮮な感動がよみがえって伝わってくるように感じるのは私だけでしょうか。そこには平滑筋研究においてどのように研究方法が進歩しても忘れてはならない何かがある様な気がしてなりません。

前回の北海道での総会に関するそのような個人的感想も込めて、本総会のテーマは「平滑筋研究におけるミクロとマクロの視点」としました。今回の特別講演は、J Smooth Muscle Res の Editor の一人である Professor Michael P. Walsh (Calgary, Canada) に御願いしましたが、“Vascular smooth muscle myosin light chain diphosphorylation: mechanism, function and pathological implications” という、まさにこのテーマにふさわしい内容でお話しいただく予定です。

本総会では、企画シンポジウム(2件)、漢方シンポジウム、教育セミナー講演、一般講演、栗山賞受賞講演(2演題)など、恒例のプログラムに加え、現在、発足に向けて具体的な準備が進められている「日本平滑筋学会若手の会」のメンバーによるシンポジウムも予定しております。本学会の将来の発展に向けた新たな試みの一つとしてどうぞご期待下さい。

さて、実は上記の32年前の総会での口頭発表が私にとっての平滑筋学会デビューだったこともあり、北海道での第2回目の総会を旭川でお世話させていただくことをとりわけ光栄に存じているところです。例年のように、学問的にはもちろん会員同士の交流を深める機会としてもとても有意義であったと感じていただけるような学会にできるよう、事務局員とともに鋭意努力して参ります。どうか多数の皆さまの御参加を御願いたします。

注

[1]総会 HP サイトに PDF 版がアップロードしてあります:

[http://jssmr.asahikawa-med.ac.jp/JJSMR16\(3\)123-270\(1980\).pdf](http://jssmr.asahikawa-med.ac.jp/JJSMR16(3)123-270(1980).pdf)

[2]当時は、学会前に配布される仮抄録と、学会後に平滑筋学会誌に掲載される小論文形式の本抄録(図または表を2つまで入れられる)の二本立てでした。これは後者。

Contents page

*北海道での二度目の総会に向けて	高井 章	1
*会員計報		1
*入会のお誘い		1
*第54回総会を終えて	第54回日本平滑筋学会総会のご報告	2-3
	羽生信義 理事会・評議員会報告	
	楠 裕明	
	学会奨励賞受賞者の声	
	谷口葉子 根本真吾 梶間 未葵	
	ポスター賞受賞者の声	
	青木美歌 鍛冶屋勝子 谷口瑞毅	
*第9回栗山 熙賞決まる		3
*元理事長の白鳥常男先生を 偲んで	佐々木 巖	4
*国際シンポジウム "Regulatory Circuits in Cell Motility"開催の知らせ		4

会員計報

謹んでお悔やみ申し上げます。

白鳥常男先生(2012/10/16)
 銭場武彦先生(2012/10/24)
 西山明德先生(2013/1/4)

日本平滑筋学会へご入会を

本会は平滑筋に関わる基礎・臨床研究者が集う日本医科学会所属学会です。機関誌 Journal of Smooth Muscle Research は「IF 相当値」が3前後で国際的にも評価されています。学術集会では優秀発表を学会賞として表彰しています。皆様のご入会をお待ち申し上げます

(E-mail: jsmr-adm@umin.ac.jp)

第 54 回日本平滑筋学会総会を終えて

昨年 8 月 1 日から 3 日、第 54 回日本平滑筋学会総会が、羽生信義会長のもと、東京都の東京慈恵会医科大学で開催されました。総会報告、理事会・評議員会報告、又、学会奨励賞及びポスター賞受賞者の皆様から喜びの声を頂きました。

一第 54 回日本平滑筋学会総会を主催して一

羽生 信義(町田市民病院、東京慈恵会医科大学外科)

この度、ちょうどロンドンオリンピックが開催中の平成 24 年 8 月 1 日から 3 日まで第 54 回日本平滑筋学会総会を主催させていただきました。慈恵医大関係の本学会の会長は外科としましては第 11 回(1969 年)に大井 実先生、第 42 回(2000 年)の青木照明先生以来 3 人目ですが、生理学の先生が過去に 3 回主催されています(第 12 回: 銭場武彦先生、第 18 回: 市河三太先生、第 24 回: 酒井敏夫先生)。今回の学会総会のテーマは基礎と臨床医学者が調和して平滑筋研究のブレークスルーを願って「統合と進化」としました。

評議員懇親会(8 月 1 日、芝パークホテル)には春間 賢理事長と佐々木 巖前理事長、本郷道夫元理事長、青木元理事長にご臨席いただきました。大学からは本学会評議員でもあります慈恵医大栗原 敏学長・理事長と外科統括責任者の大木隆生教授にご挨拶いただきました。名誉会員であります岡本英三先生(兵庫医大外科、第 23 回総会会長)、今 充先生(弘前大学外科、学会事務局担当)と横山穰太郎先生(慶應義塾大学小児外科、第 40 回会長)にも暑い中いらしていただき大変感激いたしました。

学術集会(2-3 日、慈恵医大 1 号館講堂)には私が直接ご指導賜った清水保雄先生はじめ会員の先生方や同門・現役の医局員を含めると 300 名近い参加がありました。

消化管運動研究の国際的なリーダーでありました群馬大学名誉教授の伊藤 漸先生を偲んで企画しました Zen Itoh Memorial Symposium「消化管運動研究の未来」(司会: 本郷元理事長、佐々木前理事長)には国内外からその分野の第一線の先生方にお集まりいただきました。Toku Takahashi 先生(米国ウィスコンシン医科大学外科教授)の特別講演は空腹期収縮の発現機構に関するこれまでの研究の集大成で、伊藤先生を偲ぶものであります。Theo Peeters 先生(ベルギー・ルーベン大学)の講演も研究で結ばれた温かい友情によるものでした。臨床からの参加者が多くなるように教育セミナーとして「消化管運動機能検査法」(司会: 春間理事長、群馬大学草野元康先生)を取り上げました。基礎と臨床双方の話題である「平滑筋周囲細胞をめぐる」(司会: 名古屋市立大学橋谷 光先生、山本喜通先生)と題してミニシンポジウムを組んでいただきました。

全員懇親会を大学内のカフェテリアで開催し、ここで参加者の皆様に選んでもらった 3 名のポスター賞の発表と表彰を行い、受賞者は大喜びでした。懇親会終了後に外に出てみると体操の内村選手が金メダルを獲ったために東京タワーが五色にライトアップされ、平滑筋学会の開催をも祝福されているようでした。

会長講演は青木教授のご司会のもと「平滑筋学会とともに歩んだ消化管運動研究—いかに消化管運動を捉えるか—」と題して行わせていただきました。このような機会が与えられましたのは良き師と苦楽を共にした古川良幸君、今回事務局長を務めてもらった中田浩二君はじめ研究班の仲間のおかげです。54 年の本学会の歴史の中で大学教育機関以外の臨床病院の会長は今回が初めてであり、学会関係の皆様にも厚く御礼申し上げます。慈恵医大外科学講座ならびに同門会(慈刀会)からもご支援を賜り、重ね重ね感謝いたします。

一第 54 回日本平滑筋学会総会 理事会・評議員会報告一

日本平滑筋学会事務局 楠 裕明

平成 24 年 8 月 1 日(水)に開催されました理事会・評議員会についてご報告いたします。現在会員数は 445 名で昨年とほぼ同数であり、寄贈先も含めた雑誌の送付数は 480 部ほどであることをご報告しました。

春間財務委員長より平成 23 年度決算について、予定より寄付金収入が少なかったため次年度への繰越金が前年に比べ少なくなりましたが、合併号発刊による会誌印刷費の削減ができた事ため、全体では予算を下回る経費で運営できたことの報告がなされました。しかしながら昨今の市場状況から察するに多くの寄付金を集める事は難しい事ですので、数年来の検討事項である会誌の完全オンライン化を来年総会を目標に編集委員が担当して進めることになりました。

編集委員会は長きに渡り編集委員長を務めて来られました鈴木光先生が退任されることになり、新しい編集委員長には名古屋市立大学の山本喜通先生が就任されました。

高木都広報委員長からは、平成 23 年度に発行できなかったニュースレターの年 2 回の発行により活発な活動を行うとの報告がありました。更にホームページに会員の研究室のリンクを貼る事で研究活動の交流を深めることになりました。

評議員会では、山口大学の加治屋勝子先生、東北大学の長尾宗紀先生が新しい評議員に加わりました。

臨床系理事の佐々木大輔先生が辞任されたため行われた選挙では、前事務局長でもある東北大学の柴田近先生、また第 55 回総会副会長には東海大学の峯徹哉先生が選ばれました。

社会連携活動を進める事によって生じる研究者の利益や責任が、教育や研究といった社会的信頼を損なう原因であってなりません。昨年、日本医学会分科会利益相反委員会でもガイドラインが作成され、平滑筋学会としても委員会設置の必要が生じて参りました。委員メンバーの選定とガイドライン草案作成を来年度の総会を目標に進める事になりました。

昨年の 10 月より東北大学病院胃腸外科より事務局を引き受け 1 年間、諸先生方に支えられて学会運営のお手伝いをして参りました。会員の皆さまのお力なくしては成り立たない事を痛感しております。

今後ともよりよい学会運営にご協力頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

—学会奨励賞受賞者からのメッセージ—

◎学会奨励賞 名古屋市立大学大学院医学研究科 細胞生理学分野 谷口 葉子：今回はこのような身に余る素晴らしい賞をいただきありがとうございます。能力、知識とも乏しい私がこのような賞をいただくことができたのも、ひとえに名古屋市立大学細胞生理学教室の橋谷教授をはじめとして先生がたに厳しくも辛抱強くご指導いただいたからこそであると考えています。この経験を生かして今後も精進していく所存です。

◎学会奨励賞 星薬科大学大学院 医薬品化学研究所 機能形態学研究室 根本 真吾：この度、第 54 回日本平滑筋学会総会において優秀演題賞をいただき、大変光栄に思います。今回の受賞は、小林恒雄教授をはじめとする機能形態学研究室の皆様のご協力があるからこそ成り得たものであると同時に、私が長年行ってきた糖尿病性血管弛緩機能不全に対するこれまでの研究の積み重ねが評価されたとも思い大変感激しております。今回の受賞を励みにするとともに、今後も更に研究に邁進していく所存です。

◎審査員特別賞：山口大学医学部医学科4年生 梶間 未葵：この度、第 54 回日本平滑筋学会総会において審査員特別賞をいただき、大変光栄に思います。私は、「自己開発コース」という医学科のカリキュラムにて、血管病に興味をもち今回の研究を行いました。右も左もわからない私に対して、初めての学会発表を終えるまで、熱心にご指導して下さいました山口大学医学部生理学第一教室の先生方には、心より感謝しております。現在は、臨床実習に向けて、日々勉学に励んでいます。医学の知識を更に医学の知識を更に深め、今後も研究を続けていきたいと思っております。

—ポスター受賞者からのメッセージ—

◎東邦大学薬学部薬理学教室 青木 美歌：この度はポスター賞という名誉ある章を頂き、大変光栄に思っております。田中芳夫教授、茅野大介講師の指導のもと、研究を続けて参りました。学会に参加し、多くの先生方の研究に対する熱心な姿勢に感銘を受けました。これからも初心を忘れず、日々自己研鑽を積みしたいと思います。

◎山口大学大学院医学系研究科生体機能分子制御学 加治屋 勝子：第 54 回日本平滑筋学会にて、ポスター賞をいただくことができました。ありがとうございます。今回のポスター発表では、たくさんの方々が会場に足を運んでくださり、投票用の赤丸シールを貼付してくださいました。一つ一つのシールが、これからは頑張る、という応援と激励の言葉のように感じ、まだまだ奥が深い平滑筋研究に挑み続ける糧として、今後も頑張っていきたいと思っております。最後に、いつも御指導・御支援いただいている研究室員にも、改めて感謝申し上げます。

◎名古屋大学医学部医学科 5 年・谷口瑞毅：私は、理学部を卒業した後、生命科学へ興味を抱き医学部へ再入学しました。現在は学部学生ではありますが、講義・実習の傍ら消化管運動に関する研究を断続的に続けております。名古屋大学細胞生理学講座の中山先生、紘仁病院の寺本先生をはじめ多くの先生方に援助していただき、この度第 53 回日本平滑筋学会総会におきまして、ポスター賞を頂くことになり、たいへん栄誉に思います。これを励みに、基礎医学研究の臨床治療への応用へ貢献していきたいと思っております。また学会へ参加させていただいた折には、ご助言などいただければ、たいへんありがたく存じます。



学会奨励賞受賞式の様子

春間 賢 日本平滑筋学会理事長より学会奨励賞を授与され、受賞挨拶をする星薬科大学・根本真吾先生 (2012 年 8 月 3 日、東京慈恵会医科大学大学 1 号館講堂にて、写真提供：羽生信義第 54 回総会会長)

第9回栗山 熙賞 決定

故 栗山 熙先生の遺徳を偲び、平滑筋及びその関連領域の若手研究者の研究奨励を目的として設立された栗山熙賞の選考が行われ、以下の3名の方が第9回受賞者と決定致しました。先生方には第55回日本平滑筋学会総会にて受賞講演をお願いすることになっております。

筒井英明氏；川崎医科大学消化管内科学(あゆみクリニック) Scandinavian J Gastroentology 47, 893-899, (2012).

瓦林靖広氏；北九州市立医療センター 産婦人科 Molecular Endocrinology 26, 846-858 (2012).

山村 彩氏；金城学院大学 薬学部 Circulation Research 111, 469-481 (2012).

詳細は学会HP: http://www.jssmr.jp/official/pg_award/をごらんください。



在りし日の白鳥常男先生

元理事長の白鳥常男先生を偲んで

前理事長・みやぎ健診プラザ所長 佐々木 巖

日本平滑筋学会の誕生から現在までの半世紀以上にわたり学会運営に深く関わり、平滑筋研究の発展と後進の育成・指導にも誠に大きな功績を残されました白鳥常男先生が、昨年秋にご逝去されました。先生は本学会の大恩人です。慎んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、昭和 34 年に榎 哲夫先生が第一回本学会学術集會を仙台市で開催された時から平滑筋研究で活躍され、その後の日米合同セミナー「消化管平滑筋の病態生理」の開催に尽力され国際的にも活躍されました。昭和 50 年には奈良市において第 17 回学術集會会長として学会を主宰され、さらに、昭和 50 年～63 年の長期にわたり、本学会理事長を務められて広い領域にわたる平滑筋研究を牽引してこられました。先生は奈良県立医科大学第一外科教授を定年退職された後は、秋田労災病院長として地域医療に忙しく貢献される中でもいつも本学会に出席されて高所より温かく見守って

頂きました。平成 21 年仙台市で本学会開催時の評議員懇親会で乾杯のご挨拶中に脳出血で倒れられ、幸い、一命を取り留めて回復しリハビリに励んでおられましたが、平成 24 年 10 月 16 日に天命によりご家族に見守られながら 91 歳でご逝去されました。

先生は大正 10 年 4 月 14 日宮城県栗原軍築館町のお生まれで、宮城県立旧制築館中学校卒業後、陸軍航空士官学校卒業されて陸軍少尉、中尉を経験されておられます。太平洋戦争後の昭和 25 年東北大学医学部を卒業、第一外科学講座に入局、昭和 36 年講師、昭和 46 年助教授に昇進。昭和 47 年奈良県立医科大学第一外科教授に就任され後進を育てられて昭和 63 年定年退職され、その後は秋田労災病院長をお務めにられました。

先生が平滑筋研究を始められた経緯については、東北大学第一外科在籍時に、腹膜炎の診断に重要な所見の筋性防御を筋電図で測定しようとしたのが発端とお聞きました。生体の様々な部位の筋電図を測定中、尿管平滑筋の筋電図が安定して測定出来るようになったようです。当時の東北大学医学部生理学本川弘一教授の下で研究を纏められ「脊髄性痙攣に関する知見：高温高湿環境下に於ける家兎の筋電図学的脳波的研究」と題する研究論文で医学博士を取得されました。

その後はイヌを用いた動物実験で筋電図による消化管平滑筋研究を精力的に行い、先生が率いる「ミオグループ」で多くの後進育成と共に幽門保存胃切除術の開発に繋がる数多くの研究を行っておられる。榎 哲生教授と共著の論文は海外でも高く評価され、胃潰瘍に対する術式として Maki-Shiratori's Pylorus Preserving Gastrectomy (PPG) の名称で欧米の外科学書に掲載されました。PPG はその後、現在では早期胃癌に対する機能温存術式として発展し、広く普及して多くの患者さんの救いになっています。奈良県立医科大学教授時代にも迷走神経と消化管平滑筋運動に関する先端的な研究を進められました。先生は研究一筋で学問に対しては大変厳しい指導者でしたが、周囲に対しては何時も温かく接して下さり、多くの方々から敬愛されておられました。

先生の思い出は、多くの人の心に刻まれて、全てを語り尽くせませんが、これからは天国から本学会の発展を見守っていただきますよう祈念いたします。

－国際シンポジウム開催の知らせ－

Symposium: "Regulatory Circuits in Cell Motility" Honoring Dave Hartshorne

筋収縮の生化学研究の第一人者、特に、平滑筋収縮のミオシン軽鎖リン酸化説の確立で著名な米国アリゾナ大学教授 Dave Hartshorne 博士の退職を記念し、欧州、北米、アジアからの 23 名の招待講演者を交えて、細胞運動調節における情報伝達機構について討論を行います。平滑筋に興味をお持ちの方のご参加をお待ち申し上げます。

会期: 2013 年 10 月 11 日～12 日

会場: Thomas Jefferson University, Philadelphia, Pennsylvania, USA

演題募集: ポスター発表演題を募集します：タイトル、著者、所属、抄録本文 (250 words 以内) を作成し、学会事務局 Mr. David Eastwick (David.Eastwick@jefferson.edu) 宛送付願います。応募締切は 2013 年 8 月 1 日 (米国東部標準時) です。抄録は The Journal of Muscle Research and Cell Motility 誌に掲載されます。ポスター発表演題の中から口述発表をお願いする場合があります。

参加登録: 参加費無料 (昼食/ミキサー/夕食は事前に実費支払いが必要)：参加登録書を学会事務局 Mr. David Eastwick (David.Eastwick@jefferson.edu) 宛送付願います。

登録/支払い締切は 2013 年 9 月 27 日です。

学会に関する問い合わせ先 (日本語可): Dr. Masumi Eto (江藤真澄博士)

Department of Molecular Physiology and Biophysics, Thomas Jefferson University

Tel: +1-215-205-7891, Fax: +1-215-205-2073 E-mail: masumi.eto@jefferson.edu

シンポジウム HP: <http://www.jefferson.edu/jmc/departments/physiology/Symposium.html>

